

(別紙様式3) **令和6年度学校評価学校関係者評価報告**

学校名〔 京丹後市立網野中学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点（短期経営目標）					
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす生徒の育成を図る教育の推進 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 未来を展望し、自ら未来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間とともに生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。		○第2期「未来を拓く学校づくり」推進事業に学園として取り組み「育てたい非認知能力(指標)」を意識した教育活動推進、ギミックブラッシュアップシートを活用した授業づくり等に取り組んだ。 ○教科の指導と生徒指導の一体化を意識した指導、組織的な対応、支援を要する生徒への丁寧で適切な対応や関係機関との連携を図った。 △さらに日々の授業、家庭学習の中でタブレットの利活用を効果的に進める。 △早期の実態把握と対応、改善、解消に危機感を持ち、指導や支援にあたりともに、さらに関係機関との連携を進め、生徒の実態や生徒・保護者のニーズにあった教育支援を充実させる。		「ほめて、認めて、他者（社会）とつなぐ指導」の展開 「つながろう仲間と つなげよう心を！」を生徒の合言葉に、常につながりを意識させ学校生活を充実させる。 1 「未来を拓く学校づくり」推進事業の研究を通じた授業づくり及び授業改善 2 豊かな人間性の育成、規範意識の醸成 3 不登校の未然防止と丁寧な支援 4 特別支援教育の充実 5 信頼される学校づくり～家庭との連携強化 6 網野学園学校運営協議会との協働					
評価項目		重点目標		具体的方策		成果と課題（自己評価）		学校関係者評価	
学校教育指導の重点、諸計画及び各学園の重点、保幼小中一貫教育の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	1 「未来を拓く学校づくり」推進事業を通じた研究推進と授業実践力の向上 2 家庭学習時間の確保と家庭学習の習慣化		・第2期「未来を拓く学校づくり」推進事業最終年の取組を学園一体で進めるとともに、本校の学校力の向上につなげる。具体的に非認知能力の育成を研究の柱にした授業づくり、授業の改善、そして教育活動の推進を図る。 ・「主体的に学ぶ力」や「コミュニケーション能力」等の育成を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるとともに、タブレットの利活用により「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、探究的な学びの充実につなげる。 ・学園組織を活用し、系統的に家庭学習の指導を行い、習慣化及びタブレットの効果的な活用を図る。		○非認知能力育成を柱にした第2期「未来を拓く学校づくり」推進事業の研究による学校力向上を目指した結果、総合的な学習の時間も含め探究的な学びが充実し、授業改善への肯定的な評価が前年度より増えた。 【保護者】確かな学力育成のため工夫を凝らし効果を上げた(+9.9%)、主体的に取り組めるよう学習意欲の向上に力を入れた(+8.1%)、コミュニケーション能力を育成しつながる力を高めた(+6.7%) 【生徒】英語の力が付いた(+6.1%)、国語の力が付いた(+5.6%)、学習に意欲的に取り組めた(+2.9%) △家庭学習の習慣化は、保護者-8.3%、生徒-13/1%と前年度より課題意識が高まっている。基盤となる主体的で自立した生徒の育成に向けた取組が必要。		・授業改善の動きが進んだこと、またその実感が伝わっていることは、大きな意義がある。 ・家庭学習の習慣化については、学校としての取組とともに、家庭の理解・協力を得ながら連携することが必要である。引き続き、自らの目標に向け主体的に取り組む自立した生徒の育成に向けた取組を進めてほしい。	
	生徒指導	1 いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権意識の醸成 2 組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上 3 不登校の未然防止と早期対応及び解決に向けた組織的な体制づくり		・いじめの実態把握と早期対応、いじめの根絶を徹底する。 ・生徒の状況把握を共有し、生徒指導部会・教育相談部会を中心に共通確認し、チームとして生徒に寄り添う指導・支援を行う。 ・教科の指導と生徒指導の一体化を意識した教育実践により、生徒の自己肯定感の醸成や居場所づくり、組織的な対応による丁寧なアセスメントと個に応じた支援により、不登校の未然防止に努める。		○非認知能力育成を目指した教育活動、教科の指導と生徒指導の一体化を意識した教育実践や、生徒指導部会や教育相談部会、特別支援教育部会等を中心とした組織的な指導・支援を行うことができた。 △「生徒指導に熱心に取り組む、家庭と連携しながら、子どもたちが安心安全に学校生活を送れるように取り組んでいる」について約8割の保護者の肯定的評価を得るが、前年度より-6.6%と課題を残した。		・不登校への支援については、学校と保護者だけでなく、支えとなる関係機関の力も借りながら、学習への支援等、中学校卒業後の社会的自立に向けた取組が必要である。	

健康（体育）・安全	1 安全に対する意識の高揚と危機回避能力の育成 2 体力の向上・健康教育の充実、部活動の推進	- 避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室等を活用し、生徒、教職員の安全に対する意識の高揚を図る。 - 非認知能力の育成について部活動でも意識して指導や支援を行い、異年齢集団での共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させる。	○避難訓練、薬物乱用防止・非行防止教室、性の学習、ゲームネット講座等により意識高揚を図った。また、非認知能力育成の視点で部活動も充実させた。 △SNSの取り扱いについては、引き続き、知的理解にとどまることなく人権感覚を高める指導が必要。	・スマートフォンの所持率が高まる中、適切な取り扱いについて指導することが必要。一方で、オンライン授業の充実等、情報機器の効果的な活用も進めてほしい。
特別支援教育	1 校内支援体制の機能化 2 個々の生徒や保護者のニーズの把握と支援の充実 3 個々の生徒の発達特性を踏まえた指導方法の工夫改善	- 特別支援教育コーディネーターを中心に、通級指導担当、教科担当、担任、関係機関との連携を強化し、校内教育支援委員会および特別支援教育部会の一層の機能化を図るなど、校内支援体制の機能化を図る。 - 生徒及びその保護者との面談を丁寧に行い、保護者の理解を図り、関係機関と連携した支援の継続に努める。 - 通常学級に在籍する支援を要する生徒も含め生徒の実態を把握し、アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく指導・支援を充実し有効な手立てを蓄積する。	○生徒・保護者との丁寧な面談、医療機関・支援学校・行政機関との連携や、校内での生徒指導部・教育相談部との連携等による体制整備を行い、通常学級に在籍する生徒も含めて、よりよい指導・支援を継続することができた。 △さらに関係機関と連携し、生徒の実態や生徒・保護者のニーズにあった教育支援を充実させる。	・支援を要する生徒が多くなっていると聞く中で、さらに関係機関と連携し、生徒の実態や生徒・保護者のニーズにあった教育支援を充実させていく必要がある。
開かれた学校づくり	1 信頼される学校づくりの推進 2 地域の教育資源の活用 3 各関係機関との連携と協働 4 学園学校運営協議会との協働	- 保護者や地域に対して、さらに誠実・迅速・丁寧な対応に努める。 - たより、HP等に加え、ICT（iPadや連絡アプリ tetoru 等）の利活用による情報発信に努め、積極的に生徒の頑張りや学校の様子を伝え、地域との連携を深める。 - 各関係機関との連携を強め、生徒及びその家庭への支援を組み立てていく。 - 網野学園学校運営協議会、地域学校協働活動、地域連携による教育活動、PTAとの連携等の機会を通して、本校の教育に対する理解を図るとともに取組の改善を図る。	○「学校を公開し、学校の取組を便り等で十分にお知らせする開かれた学校」と保護者アンケート全項目中で最高となる 82.0%の評価を得るなど、ICT（iPadや連絡アプリ tetoru 等）の利活用が定着し、生徒の頑張りや学校の様子を積極的に発信できた。 ○総合的な学習の時間の「体験活動」等、地域の協力もいただき充実を図ることができた。 △さらに学校評価アンケート、網野学園評価を分析し、今後の学校経営に生かす。 △生徒の頑張り等のさらなる発信方法を模索する。	・各関係機関との連携を図り、地域での作品展や催し物の際での作品展示や活躍機会の設定等、さらに発信の機会を広げる余地があるのではないかと。 ・部活動地域移行の動きについても、地域との連携を強める機会としても位置づけることができる。
次年度に向けた改善の方向性	「未来を拓く学校づくり」推進事業での研究成果を波及させるように学校経営を行い、さらに本校の学校力向上につなげる。 - 主体的に学ぶための基盤になる自立した生徒の育成を目指した取組を推進する。 - 学園学校運営協議会をはじめ、各関係機関と連携・協働し、地域とともにある学校、信頼される学校づくりをさらに進める。			・教員・保護者だけでは対応困難な課題が多く、地域との連携強化も必要。